

## 地域情報

### (イチゴにおけるクロマルハナバチ利用講習会の開催)

(一社) 熊本県野菜振興協会八代支部

八代地域では、イチゴが約 53ha (J A やつしろ 28 年産栽培面積) 栽培されており、花粉交配にはミツバチが利用されています。しかし、近年厳寒期の交配用ミツバチの訪花不足による奇形果の発生や熊本地震や大雨等により管内の養蜂家が被災し、供給が不安定な状況にあります。そこで、八代支部では、ミツバチの安定供給体制の確立に取り組むとともに、代替技術であるクロマルハナバチの利用技術の確立や普及推進を行っています。

7 月 21 日に J A やつしろ 竜北支所和鹿島苺部の座談会で、「クロマルハナバチ利用講習会」を行いました。講習会では、クロマルハナバチの特性や給餌方法、過剰訪花の防止対策の他に、単棟ハウスでのローテーション利用等について説明を行いました。

また、平成 28 年度に八代支部で実施した単棟ハウス栽培での「クロマルハナバチ単独利用による交配効果実証展示ほ結果」の説明を行いました。結果としては、導入当初は花数が少なかったこともあり、導入初期 (11~12 月) に不受精果 (原因は不明) や過剰訪花が見られましたが、巣箱の開閉の調節や他のハウスとダクトでトンネルをつくり連結することにより、奇形果の発生による減収は見られませんでした。なお、ミツバチを導入していたハウスと連結したことにより、ミツバチとクロマルハナバチが混在したため、単独利用での交配効果は実証できませんでした。本年度は単棟全てにクロマルハナバチを導入した単独利用での試験を実施する予定です。

八代地域では、本年度クロマルハナバチの利用 (主に厳寒期のミツバチとの併用) が増加する予定であり、定期的な利用講習会を行うとともに、利用マニュアルの作成にも取り組む予定です。



クロマルハナバチ利用講習会風景



クロマルハナバチ設置状況